

臨床腫瘍科

● スタッフ（2022年10月1日現在）

診療科長 吉村 明修（2008年6月～2023年3月）

● 診療科の特徴

分子生物学などの飛躍的な進歩により、専門的な知識が必要とされる抗がん薬が臨床導入されてきている。また、質の高いがん薬物療法を実践するためには、がん薬物療法、抗がん薬の基礎理論を理解し、臓器横断的に全体的な視野で捉えてがん診療を行うことが重要となってきた。このような状況に対応するために平成20年6月1日に臨床腫瘍科が設置された。

当科では、主として呼吸器悪性腫瘍（原発性肺がん、縦隔腫瘍）、消化器悪性腫瘍（膵がん、胆道がん、消化管間質腫瘍）を対象にがん薬物療法を中心とした診療を行っている。また、原発不明がんの診断と治療、眼科領域の悪性腫瘍、悪性黒色腫など多くの臓器のがん薬物療法についてのコンサルテーションおよびがん薬物療法を実施している。

また、2019年10月からは、遺伝子診療センターと協働して、がんゲノム医療に携わっている。がんゲノムパネル検査を実施し、エキスパートパネルを開催している。

● 診療体制と実績

当科では、入院診療は実施しておらず、外来診療のみを行っている。対象とする疾患は、呼吸器悪性腫瘍（原発性肺がん、縦隔腫瘍）、消化器悪性腫瘍（膵がん、胆道がん、消化管間質腫瘍）、原発不明がん、眼科領域の悪性腫瘍などである。また、良性呼吸器疾患として、間質性肺炎・肺線維症、慢性呼吸器感染症、気管支喘息の診療も行っている。

2022年度の診療実績は、年間外来患者実数32例であった。外来患者疾患別割合は、呼吸器悪性腫瘍39%、消化器悪性腫瘍29%、その他悪性腫瘍21%、良性呼吸器疾患11%であった（図1）。悪性腫瘍患者21例中11例（52%）にがん薬物療法を施行した。外来化学療法センターでのがん薬物療法（注射薬）の実施状況は、8例の悪性腫瘍患者に対し55コースを実施し、呼吸器悪性腫瘍31%、消化器悪性腫瘍59%の割合であった（図2）。また、3例の患者に3レジメンの経口抗がん薬（分子標的薬を含む）を投与した。

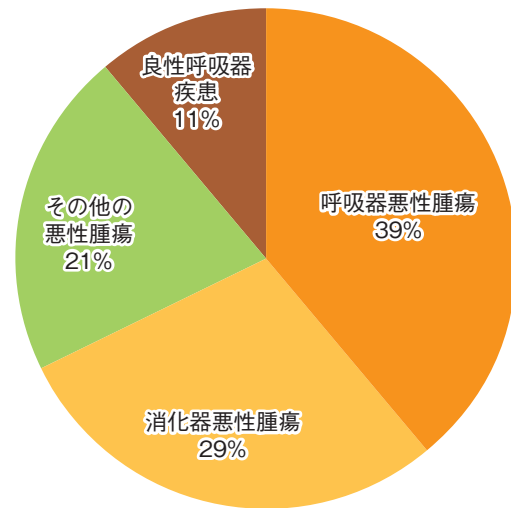


図1 2022年度外来患者疾患別割合
(患者実数 24)

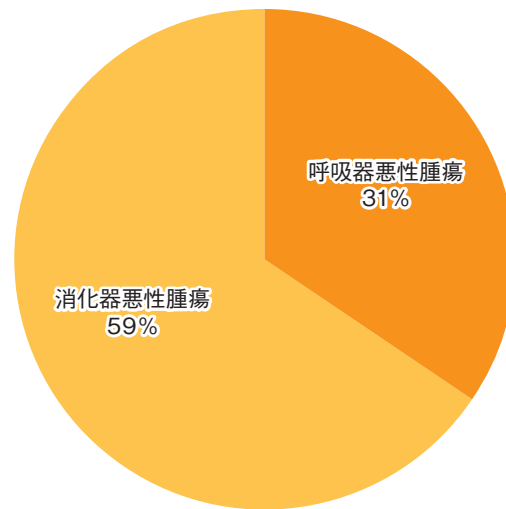


図2 2022年度外来化学療法実施状況
(全55コース)